

科学技術連携施策群の実施状況(事例)

(連携施策群コーディネータ意見交換会(8/30)資料等をもとに事務局で暫定的に整理したもの)

項目	ポストゲノム	新興・再興感染症	ユビキタスネットワーク	次世代ロボット	バイオマス利活用	水素利用 / 燃料電池	ナノバイオテクノロジー	地域科学技術クラスター							
1. 府省連携活動の活動状況 (1) 連携システムの構築 1) 協働化の進展	WG会合等で確認された課題等の、ライフサイエンス分野推進戦略への反映		ワーキング・グループ会合を通じた府省間の情報共有・役割の明確化(各連携施策群) 標準化状況の紹介、リーダー/ライター付携帯電話のデモ、医療分野での課題整理等による情報の共有 ISO標準の”響チップ”の群内プロモート	技術委員会を設置し、標準化に向けて相互協力		共同検討会、実証試験の共同実施等	医療機器用の評価指標・ガイドライン策定のための合同検討会の開催(厚労省、経産省)	地域科学技術協議会、合同検討会の開催 府省間情報共有、地域における取組の協働							
									2) 関連技術マップ等の作成・共有化・活用	戦略重点科学技術ごとの各府省施策の位置づけを明確化した全体俯瞰図を作成(各連携施策群)	当該領域の全技術俯瞰図の共有化と各Pj内/間でのインターフェース条件の明示・摺り合わせ推進	事業・研究課題マップの検討	事業・研究課題マップの検討 商品化への寄与度を明確化	テクノロジーマップの作成、ロードマップの検討	地域科学技術ポータルサイトの構築・運用 地域における情報の共有・活用
									3) 連携促進のための関連施策の充実			経産省地域新生コンソーシアム研究開発事業(他府省連携枠の創設・活用)		マッチングファンドの拡充(NEDOの機器開発プロジェクトと厚労省科研費の先端医療技術研究との共同事業)	各省制度における他府省連携枠の創設(文科省、農水省、経産省) 研究成果の実用化の促進
									4) 地域における連携活動の展開			沖縄産糖蜜からの燃料用エタノール生産プロセス開発とE3等実証試験			各地域ブロックにおいて合同成果発表会、事例集の作成等を含む連携活動を実施
									5) その他	各省の統合データベース関連施策の進展・立ち上げ(文科科学省、経済産業省、農林水産省)		各Pjでの要素技術開発に付いての”標準化スタンス”(準拠先明示、または独自の場合の勝算)を連携群で評価。(予算反映検討)		水素吸蔵合金の開発における連携の開始(情報共有・開発内容等の連携) ・SOFC基盤開発における産総研-NEDOの連携開始(H19~)	
(2) 予算への反映 (H19概算要求時を含む)	資料提出、ヒアリング、意見交換を通じて検討精査し、各府省の施策において、不必要な重複がないこと及び連携した施策であることを確認(各連携施策群)														
(3) 他府省の成果などの活用			実用化・共有化の尺度としての”モジュール化率”をフォロー管理	共通プラットフォーム技術の開発		環境省のマイクログリッドプロジェクトと国土交通省のマイクログリッドのシステム検討の相互活用 環境省のデシカント空調機の開発プロジェクトでのアンケート調査を、国土交通省の開発プロジェクトで相互活用									
									1) 相互活用のしやすさを組み入れた技術開発の進展	共通プラットフォーム(環境の情報構造化)拠点形成(九州、大阪、神奈川)	特定地域で各省連携プロジェクトを立ち上げ、データ、成果の効率的な結集・活用				
									2) 同一サイトでの共同実施等による成果の結集	海外研究拠点の共同利用による成果の結集	次世代ロボット共通プラットフォーム技術の開発に関するシンポジウムを開催(9月、11月、12月、1月予定)	バイオマス利用技術に関するシンポジウムを開催予定(11月)	各府省施策成果報告会(8月)を通じた成果活用推進	タスクフォース活動を通じた情報交換の促進 シンポジウムを開催予定(下半年)	地域科学技術ポータルサイトの構築・運用 研究成果の利活用推進
									3) 情報発信・共有化による成果の利活用推進	HPでの成果の発信を予定 HPでの成果の発信を予定	電子情報通信学会でのパネル展示(9月)、ユビキタスネットワークに関するシンポジウムを開催予定(3月)				
4) その他成果活用の事例															
2. 補完的課題の実施	1) 共通的な技術基盤の整備	ライフサイエンス分野のデータベースの統合化の促進	病原体ゲノムのデータベースの構築		ソフトウェア共有化、環境の情報構造化プラットフォーム		地域における水素利用システム 将来の水素利用社会に資する評価モデルの検討								
	2) キーとなる課題の実施による研究全体の進展	ライフサイエンス分野のデータベースの型、数、アクセス数等の調査	重要なキーとなる渡り鳥関係調査、高度安全実験(BSL-4)施設の利用調査	斬新な利活用分野のプロモート(18年度公募を含む)を通して従来の全Pj要素技術のEXIT先を拡大。			融合的な技術課題の抽出・推進(分子イメージングによるDDS、ナノバイオセンサー)	地域におけるイノベーションの波及構造の分析、地域クラスターネットワーク構造の分析 地域クラスターの現状把握・分析							
	3) 技術の利活用・普及の促進		渡り鳥飛来地での新興感染症対策、新興感染症の診断・治療・予防法の開発	新たな分野での技術の利活用の促進(医療分野での電子タグ利活用、斬新な利活用分野の探索)	共通プラットフォームの仕様公開(説明会開催予定)	バイオマス利活用システムの設計・評価手法の構築	技術普及に欠かせないシステム検討(地域における水素利用システム、水素計量システム)								
3. その他新たな取組															